

防災とデザイン

——能美防災株式会社におけるデザイン保護の取り組み

能美防災株式会社 技術本部 特許法務部 米山顕司

1 能美防災について

大正12年9月1日正午、南関東を中心に発生した大地震、のちに関東大震災と呼ばれる災害により、多くの人命と財産が奪われました。当社の創業者である能美輝一は、この惨状を目の当たりにして、火災予防を社業とすることを決めました。

現在の能美防災株式会社は、火災報知設備と消火設備を二本の柱とした、主に火災を対象とする総合防災メーカーです。当社の製品は、一般住宅から最新鋭のインテリジェントビルに至る建物、トンネルや工場、プラント、空港、屋内競技場、アトリウム、空港、船舶など、暮らしに欠かすことのできない各種施設へ、最適な防災システムを提供しています。

100年に渡る歴史の中で火災の形態や防災に求められるニーズが変わり、それに合わせて当社の製品も進化を続けてきました。

近年では、性能を有することはもちろん、お客様からは、そのデザイン性の高さも求められるようになってきました。

2 消防設備のデザイン動向

自動火災報知設備や消火設備のそのほとんどは、設置してから改修まで20年もの間、火災による動作をせずに役目を終えます。そのため、最も優先されることは信頼性であり、たとえ設置後20年目に初めて火災が発生しても確実に、火災報知、消火しなければなりません。

また、普段使わないものであるため、平常時はできるだけ目立たないようにというのが、これまでお

客様に求められるデザインでした。一方で火災報知設備の発信機のように人が操作する機器は、いざという時には、どこに設置されているか、利用者がすぐに見つけられることが望ましいという相反する側面を持ち合わせています。結局のところ、火災感知性能、消火性能、利用者の視認性といった性能面を譲れず、建物のデザインから浮いた印象を与えてしまっていたことは否めません。

3 当社のデザインへの取り組み

1) リング型表示灯付発信機

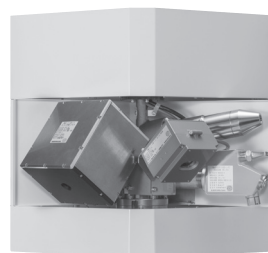
能美防災では、これまでも平常時は壁面に格納さ

●写真1 平常時に目立たないデザインの機器

SRノズル



平常時



火災時

コンシールドヘッド



平常時



放水時